



2017年5月9日

国立大学法人東京藝術大学
SOMPOホールディングス株式会社

【東京藝術大学×SOMPOホールディングス】産学連携プロジェクト

Diversity on the Arts Project (愛称：DOOR)

アートを媒介に多様な人々が共生する社会を生み出す、人材育成を通じた社会づくりへの貢献
～講座開講とプロジェクト拠点の設置～

国立大学法人東京藝術大学（学長：澤 和樹、以下「東京藝大」）と SOMPOホールディングス株式会社（グループCEO取締役社長：櫻田 謙悟、以下「SOMPOホールディングス」）は、2017年4月から多様性あるアートの価値観を社会に生かし、社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）※に寄与する人材の輩出と、多様な人々が共生できる社会環境の創出を目指す『Diversity on the Arts Project（愛称：DOOR）』（ディレクタ：日比野 克彦 美術学部長）を開始しました。

DOORの具体的取組みとして、4月10日から東京藝術大学に「アート×福祉」を体系的、実践的に学ぶ講座を開講し、東京藝大近郊の谷中エリアにDOORの拠点を設置しましたのでお知らせします。

※社会的包摂（ソーシャルインクルージョン）とは、高齢者や障がい者の方などの社会的弱者を含む市民一人一人の社会参加の機会を増やし、地域社会の一員として、互いに支え合う考え方をいいます。

1. 「アート×福祉」を実践的に学ぶ講座を開講

公募で集まった社会人などの受講者48名と現役の東京藝大生を対象とした講座を4月10日に開講しました。前期は、必修科目として、社会福祉法人、官庁、大学、NPO、アーティストなど各方面から講師を招聘し、共生社会への理解を深める「ダイバーシティ実践論」をはじめ、SOMPOホールディングスの介護事業子会社の介護施設等を活用した体験実習「ケア実践場面分析演習」を実施します。

また、選択科目として、アートを介して対話やコミュニケーションが起こる場のデザイン、アートと社会を結びつける考え方や行動のあり方を学ぶ「アート・コミュニケーション基礎」、ワークショップの企画立案から実施に向けたプロセスの構造や、多様な価値観・経験を持つ人々が能動的に交わる場のデザインについて、理論的かつ実践的に学ぶ「アクセスデザイン基礎」などを開講します。

※カリキュラムの詳細は別紙をご覧ください。



4月10日のオリエンテーションの様子

2. 東京藝大近郊の谷中エリアにDOORの拠点を設置

4月10日に東京藝大近くのまちなかにDOORの拠点を設置しました。拠点は、DOOR受講生の交流や自主的な活動の場として、またDOORの活動を地域に開いていく“ドア”としての役割を担っていきます。今後は、地域のイベントに参加するなどして、地域に潜在する多様な価値観を可視化し、地域を豊かにするきっかけを生み出すことを目指します。

所在地 : 東京都台東区谷中6-1-28

開館時間 : 平日10時から18時まで(木曜休み)



DOORの拠点の様子

前期カリキュラム（予定）

1. 必須科目

授業名	開講日	タイトル	講師名	講師所属
ダイバーシティ 実践論	4月10日	オリエンテーション	日比野 克彦	東京藝術大学 教授
	4月17日	なぜ、共生型社会なのか	野崎 伸一氏	厚生労働省 政策統括官 社会保障担当参事官
	4月24日	これからの市民に求められる態度1	中島 岳志氏	東京工業大学 教授
	5月1日	これからの市民に求められる態度2	伊藤 達矢	東京藝術大学 特任准教授
	5月8日	共生社会を考える1 弱いロボット	岡田 美智男氏	豊橋技術科学大学 教授
	5月15日	共生社会を考える2 認知症を体験する バーチャルリアリティ	下河原 忠道氏	株式会社シルバーウッド 代表取締役
	5月22日	共生社会を考える3 風テラスの活動を通じて	浦崎 寛泰氏	弁護士
	5月29日	共生社会を考える4	調整中	
	6月5日	共生社会を考える5 死について	青木 新門氏	作家
	6月12日	共生社会を考える6 介護事業所における終末期ケア	時田 佳代子氏	社会福祉法人 小田原福祉会 常務理事
	6月19日	共生社会を考える7 建築と福祉	金野 千恵氏	一級建築士/teco
	6月26日	共生社会を考える8 アジャイル開発と介護のICTシステム	藤原 士朗氏	ケアコロボ株式会社 代表取締役
	7月3日	共生社会を考える9 刑務所のリアル 高齢化や障害者が多い事実	田島 光浩氏	社会福祉法人南高愛隣会 理事長
	7月10日	共生社会を考える10 障害者とアート/クリエイティブサポートレッツの取り組み	久保田 翠氏	NPO法人クリエイティブ サポートレッツ 理事長
	10月2日	地域とつながる福祉拠点1 暮らしの保健室とマギーズ東京	秋山 正子氏	株式会社ケアーズ代表者
	10月16日	地域とつながる福祉拠点2 多古新町ハウスと恋する豚研究所	在田 創一氏	社会福祉法人 福祉楽団
	10月23日	地域とつながる福祉拠点3 シェア金沢	雄谷 良成氏	社会福祉法人 佛子園 理事長
	10月30日、11月6日、 13日、20日、27日 12月4日、11日	アーティストの活動1～7	社会福祉施設などで活動するアーティスト	
	11月18日、 1月15日、22日、 29日	文化事業から考える1～4	文化事業専門家など	
授業名	開講日	タイトル	講師名	講師所属
ケア原論	10月7日	福祉の成り立ちと近代社会	調整中	
	10月21日	福祉のこれまでとこれから	野沢 和弘氏	毎日新聞
	11月18日	介護の成り立ち・目的論 歴史と成立・疾病論からケアの目的論へ	飯田 大輔氏	社会福祉法人 福祉楽団 理事長
	11月25日	対象論 解剖生理学から捉えるケア		
	12月9日	観察論 ケアにおける観察の重要性	調整中	
	12月16日、 1月13日、27日	アートとしてのケア技術1～3	調整中	
授業名	開講日	タイトル	講師名	講師所属
ケア実践場面 分析演習	8月26日、9月7日	体験実習に向けたオリエンテーション	SOMPOホールディングス ほか	
	9月18日～ 10月3日	SOMPOホールディングスの介護施設などで実習および調査		
	施設調査後	ケア体験実習の振り返り	飯田 大輔氏	社会福祉法人 福祉楽団理事長
		3～4グループに分けて他の施設調査 調査報告書まとめ どうすれば現場のケアを変えられるかワーク		
授業名	開講日	タイトル	講師名	講師所属
プログラム 実践演習	毎回、事前に発表	プログラム実践演習	日比野 克彦	東京藝術大学 教授

2. 選択科目

授業名	開講日	授業内容	講師名	講師所属
アート・コミュニケーション基礎	4月29日	「きく力」を身につける	西村 佳哲氏	働き方研究者
	5月13日	作品を鑑賞するとは…	稲庭 彩和子氏	東京都美術館 学芸員
	5月27日	この指とまれ/そこにいる人が全て	西村 佳哲氏	働き方研究者
	6月10日	ミュージアムの特性を活かしたプログラムづくり	日比野 克彦 森 司氏	東京藝術大学 教授 アーツカウンシル東京
	6月24日	作品に立ち返ろう	伊藤 達矢 稲庭 彩和子氏	東京藝術大学 特任准教授 東京都美術館 学芸員
授業名	開講日	授業内容	講師名	講師所属
アクセスデザイン基礎	7月2日	ガイダンスー講座の目的の共有と事例紹介	伊藤 達矢	東京藝術大学 特任准教授
	7月16日	【ミュージアムにおける社会包摂的活動】 ・経済格差と子どもたちの文化的状況 ・移民とミュージアム		
	9月17日	【ミュージアムにおける社会包摂的活動】 ・当事者研究ー障害者と文化的活動 ・視覚障害者をつくる鑑賞プログラム		
	10月1日	実際の活動をつくるーワークショップメイキング		
	10月22日	企画を立てるーワークショップを計画する		
	12月3日	【ミュージアムにおける社会包摂的活動】 ・認知症に対応したプログラム		
	2月18日	年間の講座を振り返る座談会		
授業名	開講日	授業内容	講師名	講師所属
美術鑑賞実践演習	6月26日	ガイダンス「作品・モノを介して対話を生む活動の目指すところ」	稲庭 彩和子氏 (他ゲスト講師)	東京都美術館 学芸員
	7月17日	ファシリテーション基礎1		
	7月24日	ファシリテーション基礎2		
	8月28日	展示室で学ぶ場づくり1～スペシャルマンデーの流れを学ぶ		
	9月11日	スペシャルマンデー「ポストン美術館の至宝展」		
	9月25日	スペシャルマンデー「ポストン美術館の至宝展」		
	11月6日	事前準備と勉強法についてー作品研究		
	11月13日	スペシャルマンデー「ゴッホ展 巡りゆく日本の夢」		
	11月27日	展示室で学ぶ場づくり2～事前準備編ー作品を選ぶ		
	12月2日	展示室で学ぶ場づくり3～実践編ー作品の前でファシリテーション		
	2月5日	みんなで学び合うデザインを考える		
	2月13日	スペシャルマンデー「ブリューゲルの世紀展」		
2月19日	1年間のふりかえり			
授業名	開講日	授業内容	講師名	講師所属
人間形成学総論	夏期集中	人間の性質や能力を育て形成する、「陶冶」としての教育のあり方や機能についての学ぶことを通じて、芸術活動全般にかかる「形づくること」の基礎的な理解をすすめる。具体的には、現代社会における教育の問題を捉えることから出発し、人間形成の基本原理に戻る連環のなかで、陶冶としての教育学を扱う。	渡邊 祐子氏	Museum Start あいうえの プログラムオフィサー
授業名	開講日	授業内容	講師名	講師所属
アートプロジェクト実践論	夏期集中	現在、全国各地で展開されるアートプロジェクトや今後のアートプロジェクトはどの様な方向性をもち進んでゆくべきか問いをたて、実践的立場から検証と考察を行う。具体的には、東京藝大、東京都美術館やアーツカウンシル東京などが進める「TURN」(※)を題材にとりあげ、アートを介して多様な価値や人々に関わることの意味などを考えること中心に授業を進行する。 (※)アーティストが福祉施設にレジデンスし、障害者や施設の職員と関わりながら創造的な価値を育む試み。	奥山 理子氏	アーツカウンシル東京 「TURN」コーディネーター みずのき美術館キュレーター